



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 137 April. 1. 2014

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMC

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



ミュラーハットから見るマウントクック

目次

○“緊急アピール遭難事故多発!!” 遭難事故防止の合同集会開催 編集委員会	1	○ニュージーランドトレッキング 星 一男	11
○御池岳遭難対策訓練報告 野呂邦彦	5	○東海支部の蔵書からの一冊① 水野和博	12
○新年懇親会報告 佐野忠則	6	○委員会報告 登山教室委員会 鈴木慎吾	13
○“若者よ、山で集い、夢を語ろう!” 高橋玲司～”岳人”に掲載から 西山秀夫	8	○会務報告 毛利邦男	13
○支部友コーナー 酒井 広	9	○ルーム日誌・会員異動 酒井 広	17
○同好会コーナー 山中光子 西山秀夫	10	○INFORMATION	18
		○編集後記 星 一男	18

緊急アピール 遭難事故多発！！ 合同集会

支部報編集委員会 編

日時：2月13日（木）19時～21時
 場所：OMCビル 4F 講堂
 参加者数 130名（一般参加者20名を含む）
 次第

主催者挨拶 小川東海支部長
 講演「身近な山 鈴鹿山系での遭難事故」
 第1部 その原因と統計
 講師 三重県四日市西署 小古真也巡査長
 第2部 遭難事事故例と救助
 講師 三重岳連遭対委員長 居村年男氏
 講評 和田副支部長
 司会：柴田副支部長

小川支部長 挨拶

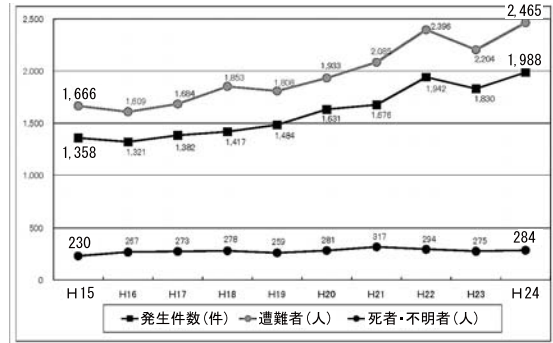
最初に、小川支部長より挨拶があった。
 最近、低中級の山岳での遭難事故が多発している。東海支部でも、残念ながら個人山行ではあるが、御在所で1名、穂高で1名遭難事故があった。このようなことから、山岳遭難の防止のために、鈴鹿山系での事故対応の第一人者である、居村三重岳連遭対委員長、小古三重県警巡査長、そして東海支部の野呂遭対委員長の3名にお願いして、遭難事故の原因・実例・救助などについて、お話いただくことを企画した。

私は、東海支部の最重要課題は2つあり、1つは自立した登山者の育成、2つ目は山岳遭難事故の防止にあると思っている。本日は、支部員、支部友以外の方も参加をしていただいた。皆さんの遭難防止に役立ててほしい。

講演テーマ「身近な山 鈴鹿山系での遭難事故」
 第1部 その原因と統計
 講師：三重県四日市西警察署 小古真也巡査長



平成25年度、警察庁が出した山岳遭難の推移



この10年間の数字で気付くことは、遭難者数が1.47倍に、発生件数が1.46倍と増加している。死者・行方不明者は1.23倍とそれほど増加していない。

遭難者の目的別割合は、登山が71.2%、山菜取りが16.3%、観光が3.8%となっている。

都道府県別山岳遭難事故件数で、三重県は発生数66件（全国13位）、遭難者数89件（全国第9位）、死者数8名（10位）となっている。岐阜県はそれぞれ65件（14位）、79名（第8位）、12名（8位）で、愛知県は8件（35位）、17名（31位）、2名（26位）である。

無事救出率は、全国平均が50%に対し、三重県は60%であった。

三重県警の資料

鈴鹿山系での遭難事故発生件数

＜鈴鹿山系発生状況＞

区分	平成25年	平成24年	増減	
発生件数	30	38	- 8	
遭難者数(人)	死者	2	4	- 2
	行方不明者	1	0	+ 1
	負傷者	14	17	- 3
	無事救出	32	24	+ 8
	合計	49	45	+ 4

※ うち御在所岳発生状況

区分	平成25年	平成24年	増減	
発生件数	14	14	± 0	
遭難者数(人)	死者	1	2	- 1
	行方不明者	0	0	± 0
	負傷者	8	6	+ 2
	無事救出	13	9	+ 4
	合計	22	17	+ 5

御在所山

原因別

1位 道迷い、2位 滑落の順となり原因の大半をしめている。

年齢別

(年齢別遭難者数)

()は24年

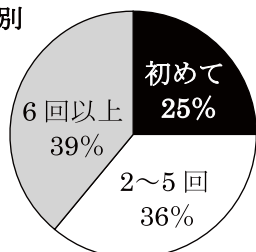
項目 年齢	人員		前年比	り災別人員				
	25年	24年		死者	行方不明	重傷	軽傷	救助
0～9	3	4	- 1				(1)	3(3)
10～19	13	0	+13					13
20～29	16	11	+ 5			(3)	4	12(8)
30～39	9	12	- 3			(3)	1 (1)	8(8)
40～49	9	10	- 1	(2)		1 (3)	2	6(5)
50～59	14	20	- 6	2 (2)		2 (2)	3	7(16)
60～69	19	21	- 2	1 (2)	2	2 (5)	5 (2)	9(12)
70～79	3	9	- 6	(1)		(5)	1 (1)	2(2)
80～	0	2	- 2	(1)			(1)	
計	86人	89人	- 3	3 (8)	2	5(21)	16(6)	60(54)

30歳未満 37%(23%)、30歳代 10%(13%)
40歳代 10%(11%)、50歳代 16%(22%)
60歳代 26%(34%)

アンケートに見る御在所岳の登山者

少し若くなって来ている。山ガールのせいか。

登山の回数別



登山届の提出状況

家族友人へ 65% (これは、口頭の届も含む)
所属会へ 1%、公共機関へ 5%
無届け 29%で問題である。

装備・携帯品

地図 29%、コンパス 22%、携帯電話 41%
雨具 35%、電灯 23%、非常食 40%

四日市西警察署管内の特徴

昨年遭難者に聞き取り調査を行った。

- ・ 県外者が 24 人 (77%)
- ・ 死者 3 名中 2 名は単独行、届は出ていない。
- ・ 登山届の未届け 17 件 (81%) と多い。
- ・ 性別では 男性 21 名(68%)女性 10 名(32%)
- ・ 年連別では 30 歳以下 13 人(42%)、30～60

歳 10 人(32%)、61 歳以上 8 人(26%)

まとめると、3月から6月の春は、新緑と花の季節で、遭難が多くなる。照葉樹林が落葉し、滑落事故が起こっている。7月から9月の夏期は、熱中症による救助活動が増える。10月から12月の秋は、紅葉の時期で、登山者も多いが、日照時間が減少し、下山遅れによる遭難が多くなる。特に、東側に下山するなら、特に早く日が落ちることに注意が必要である。

救助のための出動時の流れ

遭難者や連絡者になった時は、
110番→県警→所轄署→署員、消防、岳連へ招集 (1時間位かかる) →出発

110番時に、5W1Hで話してほしい。

・今の状況、場所やけがの状況などを出来るだけ詳しく。これは、救助の装備や人員を適切に揃えるため。

- ・携帯電話の有無

登山届の効用

同行者が登山届を出していれば、その届から居場所がわかってくる。

- ・ 装備の状況

ツェルトなど、遭難した時に1晩なりをしのぐことが出来るものを持っているか。あれば、救助してもらおうまで生き延びることも出来る。

・ヘリコプターは、日没後は飛ばない。準備は1時間ほどかかるので、連絡は早くする。

第2部 遭難事故事例と救助

講師：三重県山岳連盟

遭難対策委員長 居村年男氏



最近の遭難事故事例を、季節毎に述べたい。

- ①春の仏谷で起こった転落死亡遭難
発生日時 2012年6月23日

三滝川水系井戸谷支流 仏谷、

京都市の48歳男性 単独行 経験5年程度
登山届が出ていたことで、発見につながった。
8時50分 四日市西署5名、三重岳連6名 連
絡係2名を2手に分けて捜索した。

0時18分 中間のゴルジュ帯で発見、ヘリ
でピックアップする。



捜索行動経路

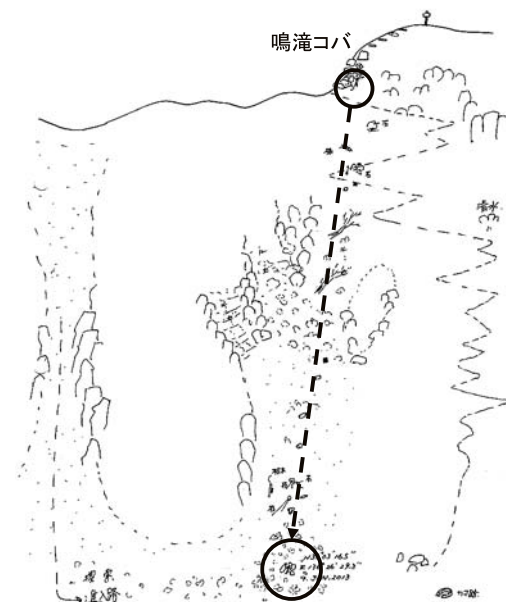
② 釈迦ヶ岳 中尾根で滑落死亡事故

発生日時 2013年5月15日

鳴滝コバ 6月9日に収容した。

三重県在住 男性 53歳

滑落現場で、胸くらいのウツギの枝が折れているのを発見。辺りは、照葉樹林帯で覆われている。照葉樹林は、4月、5月に葉を落とすため、滑りやすい。滑落痕が全く残らない。雪より滑りやすいので注意していただきたい。



発生状況の図 (標高差120m、水平差125m)

③ 御池岳ゴロ谷滑落遭難 (滋賀県側)

発生日時 2012年7月16日

長浜市在住の44歳男性 単独行 パーキンソン
病の治療を兼ねた登山

三重岳連23名、ボランティア7名、東近江
消防、東近江警察署、東近江遭難対策協議会が
捜索に当たる。

ボタンプチから、別の登山者の携帯で自宅に留守電を入れる。その後、会社から無断欠勤との問い合わせがあり、家族より捜索願が出され、7月20日から出動。ノタノ坂から入り、土蔵岳、奥の平を捜索するが、大量のヒルを収穫しただけで終わる。翌日、ゴロ谷に足を延ばすも夕方5時となる。滋賀県の消防が独自捜索し、無線でカメラを見つけたとの知らせが聞き取れた。30分の捜索後、生存救出。三重の防災ヘリで搬送。



命を救った交換レンズ他

④ 竜ヶ岳 遠足尾根での下山遅れ・道迷い

発生日時 2013年11月26日

豊田市の男性39歳 他に男性2名、女性3名のグループ

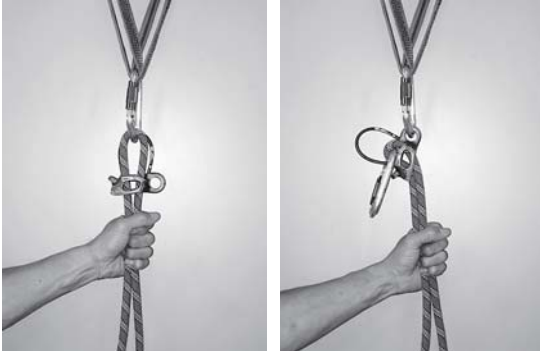
このグループの入山が11時15分と遅い。頂上到着が15時15分、15時20分には下山開始。18時55分 通報があり出動する。0時13分、発見する。生存確認。2時過ぎ全員引率し下山する。

それにしても、このグループはGPSを持っていて、なんで迷うのか。遭難原因は、計画したルートの遠足尾根に行くポイントで右に曲がらないといけないうところで迷い込み、遭難してしまった。登りでは、標識が見えるが、下りは標識が見えない設置場所であった。応急処置でマーキングを付けてもらった。

⑤その他

秋で気になる事故があった。藤内沢でクライミング中 フォロワーが地面まで落ちてしまった2件の滑落事故について。

・トップが、最新のピレーデバイスの使い方をミスし、セカンドの墜落を止められず。手がやけどしていたのでおそらく、グリップピレーをしていたと思う。これだと止められない。道具は、事故や不具合の結果、改良される。道具を使いこなせて初めて道具を使うことが可能になる。



いずれもまちがったセット

次にトップとラストの意思疎通が悪く、ザイルが途中で引っかかり、ピレーできていない状況でラストが登攀開始。誤って滑落し、地面まで落下した。

ジムでは実力があっても、自然の中ではいろんなことが起きる。登攀技術の基本的なことが出来ていない例と思う。

事故防止対策

登山はスポーツである。しかし年間300人近い死者が出る。スポーツにはルールがあって成り立つ。ルールを学んで、事故防止に努めるのはプレーヤー（登山者）のマナーである。それは、

- ・計画と基本的な装備
- ・登山前の調査
- ・万一の備え（保険、携帯電話、ツェルトなど）
- ・無理な登山を控える
- ・余裕を持った行程
- ・登山技術の習得

受け入れ側の体制を充実させることも重要である。道標・案内板なども登山者の視点で見直している。

用具の改良道具の進歩に、対応できていない。根本原因は、系統だった登山技術が、日本では確立していない点があり、技術の継承がなされていないことは問題と思う。しかし、全ての責任は登山者にあることは、自覚してほしい。

話は違うが、東海支部発行の「登山テキスト初級編」は、必要な心得や技術が凝縮して書かれている。東海支部の皆さんは、是非、教本の内容を確実に体得してほしい。

今日お話した事例の「道迷い」「滑落」の2つで、鈴鹿での遭難事故の85%を占めている。GPSを持っているのに道迷いをしたり、最新のピレーデバイスを持ちながら滑落したりする事例を見ると、2つの原因で起こる遭難事故は、無くすことが出来るんじゃないかと思う。

立派な道具や装備を持ちながら遭難している。立派な道具も、使い方を理解しないなら石ころと同じ。道具は、使う側のミスによる不具合から改善され、良くなっていく。事故が起きるのは、道具のせいでは無く、道具を使いこなせない自分が悪いと考えてほしい。若い人は、道具の名前やメーカー名をよく知っているようだが、調べる時間を、技術の向上にも使ってほしい。

最後に、「単独行」の勧めを話す。逆説的な言い方であるが、一人で登山をする場合は、計画から下山まで、全てを自分で考え、実行する。危険の負担もすべて自分が持っている。そうすることで、より多くの事が身につく。

私は「グループ内単独行」をお願いしたい。自分で単独行でやることを、グループ内でやってください。天候が悪くなるとか、リーダーのせいにしないでください。下山届も、自分のために出し、反省をして、次の登山につなげて欲しい。こうすることで「登山」の計画が下山したことで成立し、お互いに「安全」に帰ってきたことを真に自覚できるのです。

講評

副支部長 和田豊司

鈴鹿での遭難について、今日は各講師から正確なデータと事例で説明をいただき有難うございます。冒頭に野呂遭難対策委員長の話の「専用携帯電話による登山届」のことと合わせて講評したい。

東海支部では、年初から支部員・支部友は個人山行も含めて、全て登山届を出すよう指導し

ている。中には面倒だとの意見もあり、家を出てからでも専用電話に①日程、②参加者名、③山名④ルートなど、留守番電話に3分以内で伝えた届出を行っている。

今日の講演では、登山計画書が如何に大事かと云うことを、見事に説明いただいた。東海支部では、先述の専用携帯電話による個人山行の届け出を徹底し、楽しい登山を一層進めていく。

もう1つ、小古講師のお話の中で、一般には

中高年の登山者の事故が多いとされているが、鈴鹿では若い人の事故が増えていることが分かった。東海支部の若い人にも、伝えたい。

最後に、遭難事故者の内、愛知県在住者が一番多く、三重県にご迷惑をかけていることが分かった。登山届をはじめ、基本ルールを守ることによって、楽しい山行が出来ることを今日は再認識した。感謝とともにお礼を申し上げる。

遭難対策委員会

御池岳遭難対策訓練報告

遭難対策委員会委員長 野呂邦彦

2月8日(土)は、西日本から東日本の広い範囲で、発達した南岸低気圧による降雪に見舞われた。名古屋でもこの冬初めて5cmの積雪を記録した。名古屋周辺の交通機関への影響は幸い混乱もなく、遭難対策委員会では予定通り、鈴鹿の御池岳で今年初めての遭難救助訓練を行なった。

今回の訓練には、事前に三重山岳連盟の遭難対策メンバーに協力要請をして、国道ゲートの通過許可やコグルミ谷登山口近くにベースを設置するなど予定通り準備を行うことができた。9時30分、山口のゲートに集合し、雪の積もった国道を上がり、BCとなるコグルミ谷登山口に到着する。テント設営組を残し、一部崩壊した登山口からカタクリ峠をめざす。左斜面からは小さな雪崩の跡がみられ、周りの状況を見ながら、最後部とトランシーバーの交信を密に行きながら谷を登っていく。



負傷者をツェルトで包み搬送

訓練はカタクリ峠で雪の降る中、青年部高橋委員長をリーダーに、雪崩を想定した訓練をおこなった。

雪の性質・雪崩の種類・発生する地形や気象条件の解説の後、パーティーの隊員1名が雪崩に巻き込まれたという想定で、リーダーの状況判断から出された指示によるパーティーとしての連携動作を繰り返し行った。

遭難者の救出は時間との勝負であり、最初に三種の神器（ビーコン、プローブ、スコップ）の使い方の習得を行なった。ビーコンは、最新の物を購入した直後であり、使いやすさと性能の良さも確認できた。

遭難者の発見後は、組織的に搬送する手順、特に手持ちの道具から搬送用に使うための工夫や組み合わせ方法など、実践で学んだ。

昼食時間を大幅に過ぎ、雪も強くなって来たため登山口のベースに下る。ここで昼食かと思いきや、ツェルトを利用した搬送方法の訓練を開始する。

午後2時過ぎテントの中でようやく昼食を取る。ぐつぐつ煮えたシシ鍋を口に運び、ようやく冷えた体を温めることができた。

最後になるが、今年初めての訓練に、限られた時間ではあるが、登山教室メンバーも加わり、遭難者発見から初期搬送、ヘリ等を待つ場所までの搬送や収容のための搬送など、流れを作って訓練を終えることができた。リーダーの高橋青年部委員長に感謝したい。今後とも支部の主だったメンバーには参加を要請したい。

また、資材道具なども今後は充実させていきたい。具体的にはストレッチャーなど大型搬送機器などを検討すべきではないか。

終りに、基本はクライミング技術にある。繰り返し行なって手の内化して欲しいと切にお願いする。

参加者：野呂、高橋、梶川、松本、上野、山本、伊藤、岡本、服田、藤崎、小古、星、吉田



平成26年新年懇親会報告

総務委員長 佐野忠則

恒例の新年懇親会が1月12日(土)東海支部ルーム隣の高砂殿本店で行われた。本年も新年会に先立って総務委員会による新入会員向けオリエンテーションが開かれ、昨年同様新入会員だけでなく、何年か前に入会した会員も参加して午後4時30分に開始された。パワーポイントデータは本部が昨年10月に行った新入会員向けのものを使用して、日本山岳会の歴史と現状がプロジェクターによる映像により説明が行われた。また最後には最近の同好会の説明と同好会代表による入会の勧誘が行われた。オリエンテーション終了後18時から新年懇親会が開始された。最初に小川支部長から以下の挨拶があった。

支部長挨拶

先月の支部長会議で森会長から会員の増強、若返りの施策の中で、ユースクラブや支部活動において若者対象の活動が充実して来た。良い方向に向かっており、平成26年は支部活動の充実を図っていききたい、との発言があった。東海支部においては、以前から準備していたことではあるがその発言に沿った支部活動強化の一環として、2月13日に遭難対策合同集会を開く。できるだけ大勢の人に参加していただきたい。

本日はこの後、兼森広島支部長に講演していただくが、今は東海支部がいろいろな分野で前を走っているものの、いずれは追いつかれると思う。どのような秘策があるか、お話を楽しみにしている。東海支部は平成23年に50周年を迎えた。それ以降の増強で現在は331名となっている。毎年12~3名の退会があるものの50名の増強なら、支部員500名達成も夢ではない。皆さんの一層の努力を期待する。

講演会「広島支部活性化の歩み」

広島支部長 兼森志郎 氏

(略歴紹介)

昭和15年東広島市出身、広島修道大学商学部卒、同大学山岳部OB、就職後2年半名古屋に赴任、鈴鹿にて活動、広島にて起業後、ネパール・ヒマラヤ登山隊、メラ・ピーク登山隊

等の隊長として活躍、広島県山岳連盟副会長等の要職歴任後、平成10年広島支部設立、総務委員長、副支部長歴任後、昨年4月支部長就任。(講演内容)



就職後、すぐに 兼森広島支部長(広島支部提供)名古屋転勤となり、それが契機で東海支部設立期の皆さんと知り合うことが出来、以降東海支部とは、深い繋がりでは結ばれて来た。私自身は大学山岳部にいたがクライマー、アルピニストのレベルではないものの、就職後の企業設立の経験などから組織活性化のポイントなどは学ぶことができ、その経験が支部設立後の支部活性化には役立ったと思う。倉敷に就職した時に東海支部マカルー登山隊の尾崎祐一氏と知り合い、それが東海支部との縁ができた最初であった。当時東海支部はマカルーの許可が出なくて、目標をアコンカグアに変更し遠征した頃で、支部全体がいきり立っていた。将来広島に支部を作ることがあれば、東海支部をモデルにしたいとその時、心に誓った。

広島は昭和26年国体が開かれたが山岳競技は山陰の大山(だいせん)で開かれ、JAC山陰支部が活躍し、広島には広島県岳連はあったものの、主動的な立場を取ることは出来なかった。その後50年近くたって、ようやく29人のメンバーで支部を設立することが出来た。その5年後、支部員が50名程度になった時、全国支部懇談会が広島で開催されることとなり、支部活性化のチャンスではあったが、50名の内訳は殆どが他の山岳会のメンバーで、当時のJAC会長も心配されたと聞いている。50人の延長線ではだめだと思い、財務、広報、事務局が有機的に連携できる組織がポイントと考え、外部の有能な人材をスカウトし、支部報の発行や、支部会費の徴収率100%などの成果を挙げている。事務局長もしっかりした人を選任することにより、支部の成長が始まった

と自負している。その頃、ラッキーなことが重なった。

そのきっかけは、中国新聞文化センターから登山講座の開設依頼があったことから始まった。同センターはそれ以前に、広島岳連所属のメンバーと個人契約でやっていたが、中断したので、広島支部に当初個人でやらせてもらえないかとの依頼から始まった。広島支部としては個人ではなく支部として受けるとの明確な方針を取ることにした。その体制で引き受けてから今年3月で10年になり、その間に支部会員は個人160名、団体が3(大学山岳部2、探検部1)に増加し、その内、80人が登山講座卒業生となっている。

登山講座の仕組みは、先方の意見ではなく、当方の提案で進めている。

現在は11クラスあり、ワンクール1年で12回の現地学習を行い、座学は無し。新人は里山ハイクのクラスから始まる。このクラスはJR線沿線の山を対象としている。この卒業者は初級登山講座クラスに入る。このクラスは現地集合・現地解散が基本で、卒業後の交通手段は自家用車になることを考慮してマイクロバスは使わず、自家用車便乗での往復としている。これにより頂上までのルートの検討訓練になる。集合場所～頂上～集合場所が講座となる。

初級は1年を4つのステージに分ける。新入の4～6月はそぞろ歩きで講師による人物観察、7～9月はチームを半分に分け、それぞれリーダー・サブリーダー・記録係を自分たちで決める。講師は頂上で12時に会う、講師と生徒の交叉縦走であり、山について自分たちでタイムスケジュールを作る。このため皆、必死になって勉強している。下見も自分たちでやっており、2回行っていることもあるが、それで山が面白くなるようだ。この方式は当然、講師側にも勇気が要る。10～12月は4人パーティにして、リーダー・サブ・記録係はローテーションし、集中登山も行う。その頃は1人前になり、月1回の講座山行に加え、個人山行を勧めている。1～3月はワカンとストックの山行を行う。

次は中級となるが、1泊2日の山行を行い、夏は北アルプスのテント縦走、藪やビバーク訓練、冬はアイゼン・ピッケルを使う登山を

行う。

日本山岳会への入会資格は初級終了で支部友会、中級終了で日本山岳会正会員の入会資格を得るが、里山クラスは終了してもどこにも入れない。講座の期間に自立した登山者の糸口を見つけた人は育つ。現在、支部員の半分は登山講座の卒業生であるが、年齢は50代が多く、活動期間は20年程度かもしれないが、良いクラブライフを楽しんで貰えば素晴らしいと思う。講座の運営は40人で担当している。アシスタント講師は卒業生が多く、4月に正会員になった人から選抜する。現在は広島、福山、呉、岩国(山口)で11クラスの講座がある。受講生からの受講料については、中国新聞社と広島支部で6:4で案分して支部の収入となる。この10年で約一千万円たまったので一昨年、20坪のマンションを支部ルームとして購入することができた。

それまではミーティング場所にも困っていたが、そうゆうことも無くなり支部の活性化に大いに役立っている。



広島支部ルーム

特に公益社団法人に移行して以来、受講料の10%の源泉徴収がなくなり年間30万円ほど収入が増え助かっている。別件であるが、人口450万のニュージーランドにおけるNZ山岳会の会員は3000人と聞いている。支部運営も活発とのことである。このあたりの実態について、一度調査したいと考えている。

懇親会

講演会終了後は、会場を変えて懇親会に移った。冒頭の挨拶は尾上常任評議員にお願いし、例年のように九州在住の石原國利支部員から送られた黒田武士で乾杯、和気藹々の雰囲気の中で懇親会が進められ、会場は大いに盛り上がったところで閉会となった。

“若者よ、山で集い、夢を語ろう！”～「岳人」に掲載から

日本山岳会東海支部青年部委員長 高橋玲司
西山秀夫

「岳人」2月号を読んでいたら青年部高橋委員長がよい文を書いていたので、サマリーとして紹介する。

2009年11月17日、名古屋市中区にある日本山岳会（JAC）東海支部の狭い部屋は、20歳前後の若者であふれ返っていた。平均年齢70歳近い当時のJACからは想像のできない光景だった。7大学から45人。一度はその火の消えた「東海学生山岳連盟（学連）」の再スタートだった。

三重大学ワンダーフォーゲル部の主将・井上正隆君（現富山県警山岳警備隊）の初々しい司会と、委員長に就任した南山大学アルパインクラブのリーダー山田利行君（現JAC東海青年部副委員長）の元気いっぱいのあいさつ。明るい希望に満ちた結成式だった。

かつての学連は10年ほど前まで存在していた。規約も名簿も何もない、東海地区の大学山岳部が寄って騒いで酒を飲む会だった。しかし、20年近く前、私が委員長を引き受けたとき、一つの提言をした。日本山岳会東海支部へのクラブ加盟だ。学連がクラブとして加入すれば、加盟校の山岳部員すべてがヒマラヤ経験の豊富なJAC東海に顔を出すことができ、ヒマラヤ遠征のチャンスが増えると同時に、弱小の山岳部や部員が1人の山岳部でも東海支部の名を借りて、合同の合宿が成り立つのではないかと考えたからだ。しかし、話はうやむやになってしまい、はかなくも夢と消えた。そして時は流れ、数々の大学山岳部の消滅と同時に、学連も消えてしまった。

学連を何とか復活させたいと思ったが、それは困難を極め、さまざまなアプローチを試みた。山に関心の高い若者を呼び込むために、東海支部として海外登山委員長の故田辺治さん（ダウラギリで雪崩により行方不明）と青年部が主催する「ヒマラヤ研究会」を継続して開いたり、学生とのつながりを求めて愛知・三重・岐阜各県の岳連の講習会に参加したり。さらにはネットやブログで呼びかけるなど、さまざまな手段を講じた。そして、やっと知

り合えた意識の高い学生が南山大の山田君、三重大の井上君だったのだ。

同時に、学連をJACにクラブ加盟させた。各大学が直接JACに加盟するとなると、個々の大学の負担する加盟料は部員数人の大学にはかなりの負担となる。しかし、これで現在12大学110人の若者が、たった一つの団体加盟で日本山岳会に大手を振って来られるようになったのだ。20年前から思い続けてきた私の構想が成就した瞬間だった。

若者に今も昔もおそらく共通していることは、規則・規約が嫌いだということだ。自由に登りたい、自由に登るためにはインターネットから簡単に情報も入る。ネット上で知り合い、計画して山に行く。そんなネット上の山岳会も現実に存在する。本名や顔、性格よりもネットで知り合えた条件で事足りるのだろうか。

だが、今こそ原点回帰で、デジタルからアナログに戻ることも新鮮だと気づいた若者も多いはずだ。ネットの世界が発達しても、山登りとは自然と向き合う究極のアナログ世界であり、人が自然に向き合う最高のパフォーマンスなのだ。話し合い、時には酒を酌み交わし、話しながらでき上がる夢や目標も多いと思う。そこで、命をかけることの尊さや、一生懸命登ることの面白さを学んでいくのだろう。

それでも、青年部はそれぞれの楽しみ方を尊重し合い、楽しく報告し合い、共通のベクトルを探し合いながら活動している。もちろん登山に対する安全意識の啓蒙をはじめ指導講習はしっかりと行っている。SNSなどネット媒体は重要なツールだが、必ず面と向かい、話し合って結論を出すようにしている。

今こそ、次世代を担う若者たちには言いたい。「若者よ、山で集い、たくさん夢を語り合い、若さゆえのパワーで、素晴らしい山の世界を作ってほしい」と。

支部友コーナー

◆支部友委員会では平成26年6月、7月、8月に次の山行を予定している。

- 6月7日(土)中央アルプスの三ノ沢岳(2,846m)
☆ リーダー：伊藤康信
- 6月14日(土)北遠の熊伏山(1,653m)
☆ リーダー：尾上 昇
- 6月21日(土)若狭の野坂岳(914m)
☆ リーダー：酒井 広
- 7月12日(土)☆東濃の富士見台(1,739m)
☆ リーダー：伊藤康信
- 7月19日(土)越前の杣山(492m)
☆ リーダー：酒井 広
- 7月26日(土)、27日(日)木曾の御岳山(3,067m)
☆☆ リーダー：尾上 昇
- 8月22日(金)～24日(日)夏山山行
八ヶ岳の天狗岳(2,646m)、硫黄岳(2,760m)
☆☆ リーダー：酒井 広
- 8月30日(土)、31日(日)夏山山行
立山(3,003m)
☆☆ リーダー：尾上 昇

山行の申し込みルール

山行の参加対象者：支部友会員、支部友委員会スタッフ

申し込み方法：申し込み先 希望する山行のリーダーに申し込む。

締切日：原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎたの参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)

詳細は支部友会員宛に同封されている「別紙」をご覧ください。

支部友会員数

平成26年2月／55名

入会者：なし

退会者：なし

◆支部友ミーティングを次のように開催する。

第5回 4月9日(水)19:00～支部ルーム

講演：セルフレスキュー・その1

内容：一般登山の事故に備えて

- ① ツェルトの使い方
- ② ビバークの仕方
- ③ 簡単なロープワーク
- ④ 非常食
- ⑤ 搬送
- ⑥ 救難通信

講師：山田明美氏 (JAC 東海副支部長)

第6回 6月11日(水)19:00～支部ルーム

① 最近の山の道具

講師：千葉泰丈氏 (駅前アルプス社長)

② 夏山オリエンテーション 詳細説明と募集案内

講師：尾上昇氏(支部友委員長)=8/30～立山、酒井広氏=8/22～八ヶ岳

第7回 8月12日(火)19:00～ 支部ルーム

講演：セルフレスキュー・その2

内容：知っておきたい救急法の基礎知識

講師：日本赤十字社 愛知県支部

申込先

尾上 昇

①〒467-0044 名古屋市瑞穂区柏木町 1-24

②FAX 052-832-3878

③メールアドレス onoe@onoe.co.jp

酒井 広

①〒487-0006 春日井市石尾台 6-6-4

②電話/ FAX 0568-92-6137

伊藤 康信

①〒454-0957 名古屋市市中川区かかのみ 1-2302

②携帯電話 090-2577-8137

③メールアドレス kobitokaba@mediacat.ne.jp

個人山行も J A C 東海登山届を！



専用携帯電話

080-2632-3776

同好会コーナー

東海支部会員が有意義なクラブライフを享受するための組織として同好会が発足しています。同好会とは、東海支部会員が同好の士と東海支部の事業目的に沿った多様な活動を通じて有意義なクラブライフを享受しようとする集りで、総務委員長の所定の承認及び常務委員会への設立報告に基づいて登録された会をいいます。同好会は支部の会議室等の施設、設備、支部報及びホームページを利用することができます。東海支部会員なら入会自由であることが前提です。同好会規約及び設立の申込み方法は本年度の支部ガイドに記載してあります。同好会が設立された場合は支部報等で告知します。

古道塩の道同好会 山中光子

古道を歩きながら歴史の紐を解く楽しみも増え、固まってしまった脳みそとの格闘で楽しく歩いています。今回は稲武の水別峠を越え旧道に入ります。

人家の駐車場の所から廃仏毀釈により首を落とされた牛頭観音を見て、墓地への道を歩きます。黒田道に出て稲武の旧道へ。塩の道を歩くにあたり縁の深い後醍醐天皇の孫にあたる尹良親王(ゆきよししんのう)の腰掛岩、塩の中継問屋・大和屋さん(TVでも放映され大量な塩を土間で商っていたので今でも冬になると土間から塩が噴き出る)にある姫が身を投げた姫井戸、稲武の武節城跡など、それぞれ歴史を感じますが何度も大火で焼失してしまっている町でもあります。主たる旧道以外では、愛知教育委員会の三河山寺研究会の方々と訪れ、馬に関わり崩壊してしまった小馬寺への道(駒山)へ、途中には役行者像があり、伊能忠敬の泊まった宿跡もあり地味ですが色々な歴史がある町です。前回訪れた馬宿・門屋さんの影響で木地師の研究も始めます。それぞれが自分のテーマを持ち古道塩の道を歩く、とてもロマンのある会です。



尹良親王(ゆきよししんのう)の腰掛岩
(台形の岩)

連絡先

mitsu.k@

ae.auone-net.jp

山スキー同好会 西山秀夫

山スキーはスキーを活用する冬山の1ジャンルです。積雪期は粉雪滑走、残雪期は広大なゲレンデと化した斜面の大滑降を楽しみます。このためには基礎的な体力やスキー技術が必要です。日帰りであってもビバークはありうる。雪上技術も身につけたい。すべてはこれからです。以下に第1回目の感想文を添付しました。

ASC会員の皆様

リーダーの山田様には企画からクルマのお世話まで大変ありがとうございました。参加者の皆様はお疲れでした。1/18には既報の通り、毘沙門に登って来ました。初顔合わせであり、皆さんの力量もまったく分からない条件でしたが、何とか、11名の参加者のそれぞれの事情は把握できたと思います。次回はもっと優しくスキー場で基礎スキーから練習した方がよいかと思いました。うまい人を先頭にトレインで滑走してゆきます。スキーの技術にしてもボーゲン、サイドスリップ、シュテム系のターン、ギルランデなどのずらしの技術を一通り覚えた方が楽です。どんな急斜面でも整地されていない箇所でも確実にこなせないと危ない。キモはゲレンデと違ってごまかしができない。切り開きもない、狭い、藪だらけの尾根で難渋しました。同じ山でも積雪量、時期で大いに違います。高い山ですと藪は皆無です。雪原が続いてゲレンデに見えますが、スキー滑降に条件のいい山はルートファインディング、ホワイトアウト、雪崩、凍結などの危険が常にあります。風が吹くとシュプールなどはすぐに埋まり消えてしまいます。乗鞍岳、御岳山では雪面の凍結もあり、ピッケル、アイゼンも必要です。高山ではビーコンセット、ビバークセット、雪中生活の技術(スコップで雪洞を掘る、雪で水を作り煮炊きするなど)、赤旗を立てて下山路の確保、などこなす知識、技術が大変多くなります。リーダー任せでは無く、リーダーに不測の事態があれば皆が即対応できるようにしたいものです。(西山秀夫)

ニュージーランドトレッキング報告

星 一男

山行委員会の海外登山として昨年11月末から11日間のニュージーランドトレッキングを行った。

登山期間 2013年11月29日～12月9日
 山 名 NZ サザンアルプス マウントクック村周辺
 目 的 ニュージーランドの登山事情の現地調査を兼ねたトレッキング
 メンバー (4人)

星 一男、木村孝保、椿 利枝子、星 紀代美
行動概要

11月29日 セントレアから成田、シドニー経由で30日クイーンズタウン入(泊)
 12月1日 車でワナカ近くのロッキーヒル登山。Mt. アスパイアリングの雄姿を写真に収める。ワナカ(泊)
 12月2日 ワナカからマウントクック村へ移動 ヘリで氷河観察 ロッジ(泊)
 12月3日 シアリーターン・ミューラーハット・Mt. オリビエ登山 ロッジ泊
 12月4日 フッカーバレートレッキング後 トワイゼルへ移動(泊)
 12月5日 クイーンズタウンでトレッキング(泊)
 12月8日 クイーンズタウンから往路と同じ経路で日本へ
 12月9日 セントレア着 解散

山行を終えて

ニュージーランドは気候の変化が激しいと聞いていたが、夏の初めの時期に幸運なことに南極風も穏やかとなる双子の高気圧のお蔭



ヘリトレックでタスマン氷河へ

で、行動中は全日好天に恵まれた。マウントクックの山容が毎日、快晴の青空に映し出され、写真撮影も十分にできたことは収穫であった。

今回は、サザンアルプス、Mt. アスパイアリングとマウントクック周辺の登山情報を収集するため、両国立公園の事務所(DOC)を訪ねて登山情報や地図を入手した。ニュージーランド・サザンアルプスでは、環境保護の活動が厳格に行われ、登山者の数も限られている。

氷河に囲まれ、自然がそのまま残された峰々は、どれもタフな登山を要求される。天候が安定しないことも多い。しかし、高度も日本と変わらず、ヘリなど利用すれば短期間でも登山や氷河歩きなどが楽しめる場所はメリットである。上記のような事情を理解して、計画を立てる必要があると感じた。

予告案内

今回のトレッキングの経験を生かし、来年2月に、再度、ニュージーランド南島の登山とトレッキングを計画します。参加を希望される方は、下記までお問い合わせください。

E-mail: khoshi@katch.ne.jp

星 一男まで



雪煙をあげるMt. アスパイアリング



東海支部の蔵書からの一冊①

図書委員 水野和博

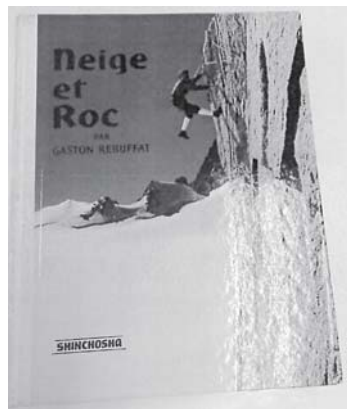
図書委員会では、今回から毎月、東海支部が蔵書している本の紹介を行うことにした。目的はルームにある古今の名著に、会員諸兄がなお一層親しんで欲しいと思うからである。

ルームに来られた時は、蔵書の中から自分の山の一冊を探してほしい。

図書委員長 石田 文男

『雪と岩』

ガストン・レビュファ著



15歳の著者は、背が高かったが腕力は弱く、鉄棒にぶらさがって上半身を起すのに苦労するほどであった。そんな中でも将来は「私は、アルプス登山のガイドになり

たくてたまらなかった」と切望していた。

その頃はマルセイユに住んでいたが、4月のある日曜日に8歳年上の「アンリ・ムーラン」がカラックの「グランド・カンドル」登攀に誘ったのが始まりであった。

当時は麻のザイルで体に結び合い登攀を始める。登攀中2度もムーランの確保に助けられたが、それは著者ガストン・レビュファを山の領域へ扉を開けさせた。また、「若い者は、生きるために大きな希望を抱かなければいけない」とも言っている。

著書には、クラック・チムニー・フェイス・オーバンハンクなどのあらゆる登攀技術を豊富な写真とともに縦横に解説・分析した当時の最高で最良の技術教本でもある。

また、著者の思想が随所に述べている。その中でも特に「アルピニストは、肉体的な平衡とは別に大切な平衡がある。それは、精神的な平衡である」と語っているのが印象的だ。

この平衡感覚は、ガイドのジノ・ソルダから学んでいる。さらに、登る技術を会得する

だけでなく、高山に関する認識を高めることも学ばなければならない。登攀テクニックはその安全性を満たす条件の一手段でしかない。

著書は、七編から構成されている。

I、装備と用具

装備は凍りついたような寒い日か、ザアザア雨の降りしきる日を選んで買いに行くが良い。

II、ザイルの結び方

ザイルを結ぶのは慎重を期するための処置であって、山行の第一歩から登攀の続行は決して、なおざりにしてはならない。

III、岩登りの技術

岩登り技術には二つに分けられる。自然の様相を利用する普通の登攀と、ホールドが無い場合、肩梯子・ピトン・チロリンなど各種の方法による人工登攀。

IV、雪と氷のテクニク

雪や氷の上では掴むことができるものは何一つない。斜面がたとえどんな急であっても、足をしっかり踏まえ、体を常に垂直に保っていなければならない。

V、ザイル・パーティで行動に初心者がチームに加わる時、そのザイルは彼の生涯でのおそらく最初るとき、もっとも困難なとき、彼を仲間たちと結びつける。

VI、山の危険

アルピニストやガイドの幾人かは山で死んだ。だがアクシデンの大多数は初心者である。登高より下降の際に発生する。

VII、山行

アルピニストは特に冬から春の間に、登山の計画を熟成させる。山行は、岩と雪の連続が何よりも、私たちを呼びよせる。

など、詳細に写真を交え説明されている逸品の技術書である。

この書には筆者も魅了・感化された一人である。アルピニズムを求める若い人々に、是非自らの山への姿勢を見つめるためにも一読を奨める一著である。

昭和36年8月5日発行

B5版 191頁 新潮社

委員会報告

【登山教室委員会】平成26年度各登山教室(前期)の活動内容を紹介します。

中日 座学：第1水曜日(10：00～12：00)

現地学習：第3水曜日

日にち	講義・山名
4月2日(水)	講義：「登山の基本」
4月16日(水)	鈴鹿：ブナ清水～国見岳
5月7日(水)	講義：「地形図の読み方」
5月21日(水)	高島トレイル：大御影山
6月4日(水)	講義：「登山装備の基礎知識」
6月18日(水)	湖北：横山岳
7月2日(水)	講義：「山のトラブル対処法」
7月16日(水)	南信：富士見台～南沢山
8月6日(水)	講義：「バテない歩き方」
8月20日(水)	蓼科：蓼科山
9月3日(水)	講義：「天気を予測する」
9月17日(水)	伊吹山地：伊吹山

朝日 座学：3ヶ月に2回、第1木曜日(18：30～20：00) 現地学習：第3日曜日

日にち	講義・山名
4月3日(木)	講義：「登山の基本」
4月20日(日)	鈴鹿：仙ヶ岳
5月8日(木)	講義：「登山装備の基礎知識」
5月18日(日)	鈴鹿：鎌ヶ岳
6月15日(日)	伊吹山地：伊吹山
7月3日(木)	講義：「バテない歩き方」
7月13日(日)	美濃：納古山
8月7日(木)	講義：「山のトラブル対処法」
8月10日(日)	南信：尾高山・御池山
9月7日(日)	越美山地：三周ヶ岳

NHK 座学：第1木曜日(19：00～20：30)

現地学習：第3土曜日

日にち	講義・山名
4月3日(木)	講義：「登山装備の基礎知識」
4月19日(土)	湖南：鶏冠山・竜王山
5月8日(木)	講義：「登山の基本」
5月17日(土)	鈴鹿：鎌ヶ岳
6月5日(木)	講義：「バテない歩き方」
6月21日(土)	諏訪：入笠山
7月3日(木)	講義：「山のトラブル対処法」
7月19日(土)	南信：富士見台～南沢山
8月7日(木)	講義：「地図の読み方」
8月23日(土)	北アルプス：乗鞍岳
9月4日(木)	講義：「天気を予測する」
9月20日(土)	木曽：南木曽岳

中日・山ガール 座学：第2水曜日(18：30～20：30) 現地学習：第3日曜日

日にち	講義・山名
4月9日(水)	講義：「登山の基本」
4月20日(日)	鈴鹿：竜ヶ岳
5月14日(水)	講義：「登山装備の基礎知識」
5月18日(日)	飛騨中央部：築谷山
6月11日(水)	講義：「バテない歩き方」
6月15日(日)	奥越：鷲鞍岳
7月9日(水)	講義：「山のトラブル対処法」
7月13日(日)	南信：陣馬形山
7月30日(水)	講義：「地図の読み方」
8月10日(日)	南信：熊伏山
9月3日(水)	講義：「天気を予測する」
9月7日(日)	越美山地：大日ヶ岳

登山教室副委員長 鈴木慎吾

会務報告

【2013年12月常務委員会】

日時：12月25日(水)19時00分～21時00分

1. 小川支部長挨拶

(1)12月7日の年次晩餐会に先立って開催された支部長会議について報告。①山の日制定、②300名山改訂版の編集状況、③日山協との新たな関係、④YOUTH CLUBの活動について報告を受けたのち、支部活動に関する意見交換が

あった。その中で東海支部として下記の点を報告すると同時に本部に対する要請を行った旨報告。

A) 報告：会員獲得のため①登山教室から支部ならびに支部友会への入会勧誘、②山ガール講座から東海 YOUTH への入会勧誘、③学生連盟会員から青年部への入会勧誘などを行っている旨報告。

B) 要請：若手会員確保の為、本部に対し次の要請を行った。①有能指導者を招くための費用の助成、②青年部の装備購入費用の助成、③全国安全登山講習会の継続的開催並びに参加費用の助成、④海外遠征への助成。

(2) 東海支部の来年への抱負として、役員の大改選の年に当たり、委員会の活性化に努めて欲しい旨、発言があった。

2. 佐野総務委員長

①日山協との関係について、「山」1月号に掲載予定であるので見て欲しい旨要請あり。

②各委員会への要請—来年度事業計画を来年1月の常務委員会までに報告して欲しい

③全国支部懇談会への参加要請—来年は埼玉支部担当で10月18・19日に開催予定であるので、出来る限り参加して欲しい旨要請。

3. 委員会報告

①岳連(市川)：大城和恵氏を講師に迎え11月29日に開催された‘遭難を考える講演会’に参加、a)心筋梗塞、b)低体温症などについて講演があった旨報告。

②支部友委員会(酒井)：11月は3つ山行を計画していたが、いずれも中止となった。12月に2名新規入会があり、現在55名の体制である旨報告あり。

③山行委員会(柴田)

◆亀の会—11月28日富士見台の山行に22名、12月19日の忘年山行には38名が参加した旨報告あり。また今後の山行予定として1月5日・6日に千支の山‘馬原山1044m’と‘陣馬形山1445m’(13人参加予定)、1月29日奥矢作の‘駒山’(23人参加予定)を計画している旨報告。

◆第1山行グループ(石田)—11月及び12月実施の山行及び1月2月予定の山行につき報告。参加申込者数がリーダーにより偏る傾向があるとのこと。新しいリーダー数名確保に向け努力中である旨報告あり。

④猿投の森づくりの会(和田)—配布された資料に基づき、活動内容及び今後の予定について報告。作業小屋の撤去完了、道具置き場として民家納屋を借用した旨報告あり。

⑤東海 youth(山田)—個人山行を主体とするよう移行中。問題点としてはよく山へ行ける人と、そうでない人との差が出てきた。星常務委員より東海 YOUTH の活動内容を書面で常務委員会に報告して頂きたい旨要請があった。それに対し、山田委員長より検討する旨の返答あり。

り。

⑥登山教室(天野)—4教室とも生徒数15～22名で順調に推移している旨報告。

⑦青年部(高橋)—御嶽での雪上訓練は22名参加して行った。今後の青年部の活動を若手主体‘高山’、‘山田’‘梶浦’などで活発化していきたい旨報告。

⑧自然保護委員会(南川)—東海支部担当で開催予定の第18回森の勉強会は東海支部ルームでの開き宿泊は‘ルートイン’を計画している旨報告。

⑨ボランティア委員会(前田)—配布された資料に基づき、平成26年度事業計画を報告

⑩遭難対策委員会(野呂)

※携帯電話による登山報告は月10回くらいあり、ありがたい。

※2月8・9日厳冬の山行として“御池岳”を青年部・救助隊の訓練を兼ね募集している旨報告

⑪写真展実行委員会(井上)—写真展用DMポストカード9000枚印刷したこと、写真展用名簿の方約1000名には郵送する予定である旨報告あり。

⑫総務委員会(佐野)

※新年会—現在の申込は74名と報告。開催日については、今迄1月の第2土曜日としてきたが祝日法改正に伴い、必ず3連休となることとなった為、一部の方からの要請もあり、来年以降は第3土曜日に変更する予定である旨報告あり。

※支部員の数について—現在331名で、その内130名はここ4年ほどの新入会員で、入会人数は多いが、支部員数は10年前からあまり増えていないことをみると高齢化に伴い自然減が大きな問題となっていることが分かる。26歳以下の入会金免除および年会費50%減額の制度を活用し、若年層の新入会員を増やす努力の継続が求められる旨発言あり。

⑬夏山フェスタ(小川)

第1回は4000名超の入場者あったこと、第2回開催に向け東海支部への正式依頼が入ったこと、同時に第2回は6月7日と8日に開催されることになった旨報告あり。

出席者： 中世古、野呂、箕浦、小川、和田、柴田、山田、佐野、市川、石田、星、天野、酒井、南川、高橋、前田、井上、

【2014年1月常務委員会】

日時：1月22日(水)19時00分～20時30分

1. 小川支部長挨拶

1月11日開催した東海支部新年懇親会にて広島支部長兼森氏に広島支部の活動について講演をして頂いたが、その中の登山教室の運営・指導方法に東海支部としても参考になる点がありなかなか興味深かった。登山教室で自立した登山者の育成に成功している様子で、登山教室卒業後支部入会時には、自立した山行が出来るまでになっているとのこと。この点東海支部も見倣う必要が感じられた旨挨拶。

2. 委員会報告

①会計(市川)：例年のように、現時点でも年会費未納者がいるので、電話にて会費納入を促していきたい旨報告。佐野総務委員長より、2年以上の未納者への対応については本部と調整の上処理していきたい旨発言あり。

②岳連-佐野総務委員長より、日本山岳会と日山協との新しい関係については、‘山’1月号に森会長の説明が掲載されているので、読んでほしい旨依頼あり。日本山岳会の公益法人化に伴い、従前のように日山協の傘下に位置することに問題が出てきたため、これからは対等の立場で日山協とお付き合いをしていくことになったことが主旨であるとのこと。

③支部友委員会(酒井)：配布された1月8日開催の委員会の議事録をもとに12月・1月の山行及び12月11日の忘年会などについて報告。‘支部友だより’復活を検討しているとの発言に対しては支部報の‘支部友コーナー’の記事と内容がダブらないように配慮が必要である旨複数の委員より指摘あり。会員数は55名である旨報告。

④山行委員会(柴田)

亀の会と第1山行グループの共通の問題として、リーダーを引き受けて頂ける方が減少している実情に如何に対応していくかという事がある。特に亀の会については、サポート会員は16名いるものの、現実に活動しているのは4人しかいない現実がある。3月のリーダー会議にてこの問題につき議論をしていきたい。

第1山行グループ(石田)－配布された2014年度事業計画書につき補足説明。

⑤猿投の森づくりの会(和田)－配布された資料に基づき、活動内容及び今後の予定について報告。民家借用については、納屋の代わりに離れを借りることが出来たので、平屋作業小屋

に保管してあるものをそちらへ移すことが可能となった。3月末までの平屋作業小屋撤去に目途がついたとのこと。

⑥東海 youth(山田)－配布された1月活動報告書に基づき会員動向、山行報告・計画の説明を受ける。

⑦登山教室(天野)－H26年度の事業計画を配布された資料に基づき報告。運営費については、H25年度はバス代の持ち出しもあり少し赤字だったので、H26年度はなんとか赤字を出さない運営に努めたい。但し装備(特にトランシーバー)の更新が必要なのでH26年度期初に30万円ほど運転資金をお借りたい旨要請があり、承認された。

⑧支部報(星)－支部報No.137の原稿依頼者・内容および原稿締切日の案内。また支部報をカラー版に変更することを検討中である旨報告。

⑨青年部(高橋)－配布された資料に基づき、2013年度事業報告、本部主催‘冬山・雪崩講習会’並びに2014年度事業計画の説明を受ける。6月には本部共催‘青年部ミーティング’を上高地にて開催を予定しているとのこと。

⑩図書委員会(石田)－これからは、支部報に毎回本の紹介をしていきたい。

⑪ボランティア委員会(前田)－春のブラインド登山は、第1希望5/11、第2 5/25、第3 5/10、第4 5/24のいずれかを予定、開催日決定は2月初めのバス予約抽選の後。

⑫遭難対策委員会(野呂)

※携帯電話による登山報告は毎日のようにあるとのこと。

※2月8・9日を予定している“御池岳”の雪山訓練には、出来れば各委員長も参加して欲しい旨依頼。

⑬写真展実行委員会(井上)－1月22日現在、写真展出展申込作品数は75点(出展者数51)、『岳人』に写真展の記事掲載を依頼したとの報告。

⑭森の音楽祭(箕浦)－瀬戸市役所を訪問し、雨天の場合の会場確保を正式に依頼した旨報告。

⑮総務委員会(佐野)－今年の新年会懇親会参加者は80名であった。昨年100名に対し20名減ったが、特に目玉になるようなイベントもなかったのでやむを得なかったかと思っております。

出席者： 中世古、野呂、箕浦、小川、和田、柴田、山田、佐野、市川、石田、星、天野、酒井、高橋、前田、井上、

【2014年2月常務委員会】

日時：2月26日(水)19時00分～20時30分

1. 小川支部長挨拶

平成25年度は、新会員及び若年会員確保の努力をしてきたところであるが、平成26年においても引き続き同様の努力を払っていきたい。それとは別に、平成26年度は①自立した登山者の育成、②山岳事故防止に努めることを目標として掲げたいので、各委員会の平成26年度の事業計画立案にあたってこの目標が反映されたものにして頂きたい。

2. 審議事項

①山行委員会組織変更について(柴田)

第1山行グループ及び亀の会は、現在山行委員会の下の小委員会の扱いであるが、それぞれが大きな組織として活動していることに鑑み、組織の活性化を図る意味でも、それぞれ独立した委員会とする組織に変更し、その代表者には常務委員会に出席してもらう事としたいので常務委員会で審議願いたいとの発案ありー承認。

②ボランティア登山リーダー養成講座の開催について(前田)

ブラインド登山の全国普及と、関心のある他支部からの要請に答えるため、ブラインド登山リーダー養成講座を東海支部ボランティア委員会主催で開催したいので審議願いたいー承認。

③写真展開催時に来場者に配るべく、東海支部活動のパンフを用意できないか？(箕浦)
一承認の上、小川支部長が原稿を用意することとなった。

3. 委員会報告

①総務委員会(佐野委員長欠席の為柴田副支部長)：配布された当面の主な予定につき説明。

②会計(市川)：3月の常務委員会にて、各委員会の予算を発表できるようにして頂きたい旨依頼。

③岳連(星)一特にないが3月1、2日に御嶽2240にて雪上訓練が予定されている旨報告。

④支部友委員会(酒井)：配布された2月3日開催の委員会議事録をもとに1月・2月の山行状況報告。山行案内については、137号支部報

掲載記事は簡略なものとし、別に詳細内容を「支部友会山行案内」としてチラシを支部報封筒に同封することとした旨報告。会員数は55名で変わらず。

⑤山行委員会(柴田)

1) 亀の会：山行-1/23駒山に23名参加(かんじき山行を想定するも、雪がなかったため陽だまり山行となった。今後の山行予定は、3/23大船山1130m、4月三峰山を予定。

2) 第1山行グループ(石田)ー山行リーダーは現在14名、H26年度も山行スタイルはリーダーに一任することとする、と同時にホームページによる募集を継続する予定。山行参加者が‘自立した山行が出来る’ように指導していきたいとのこと。又、リーダーの後継者を育てるべく、50歳台前半までの支部員にアプローチをかけているところである旨報告あり。8～10名程新規リーダーを確保する目標とのこと。

⑥猿投の森づくりの会(和田代表欠席の為柴田副支部長)ー4月から開講されるなごや環境大学共有講座での猿投の森づくりの会の講座紹介パンフの配布。

⑦東海youth(山田)ー配布された2月活動報告書に基づき会員動向、山行報告・計画の説明と同時に、1)既に支部員となっている人には、山ガール講座の講師になってもらう事を検討していること、2)山ガール講座の受講生が減少傾向にある実情に鑑み山ボーイも一緒に受講できるよう10月から講座の仕組みを変更する計画との報告。

⑧登山教室(天野)ー指導者が高齢化している状況なので、新陳代謝を図る努力をしているとのこと。市川さんにも指導員になって頂いたとのこと。H25年は、登山教室から10名支部友に入った旨報告。

⑨支部報(星)ー支部報No.137の編集会議を3月10、11日に開く予定である旨報告。

⑩青年部(高橋)ー配布された資料に基づき、行事予定の説明あり。計画していたアウトドアフェスティバルは財源確保できないため中止となったので、青年部の参加も無くなった旨報告。

⑪ボランティア委員会(前田)ー4月4日・5日開催予定の知的発達障害者支援登山(SON・愛知)の登山計画書配布・説明。また「春のブラインド登山」は、5/11にて決定した旨報告。

⑫遭難対策委員会(野呂)

2月8・9日“御池岳”の雪山山行及び2月13日の「遭難対策合同集会」「鈴鹿の山の遭難を考える」は成功裏に開催出来た旨報告。

⑬自然保護委員会(南川)ー配布された資料に基づき、予定されている自然観察山行、猿投の森の調査ならびに森の勉強会につき報告。また猿投の森でシカが増えているので注意・観察必要である旨報告(1平方キロあたり3～5頭より増えると自然破壊が進むので注意必要)

⑭写真展実行委員会(井上)ー配布された資料に基づき、作品応募の現状、準備状況、宣伝活動状況につき報告。

⑮総務委員会(毛利)ー

1)配布された資料に基づき支部事務局会議の内容を報告。ー支部活性化のための助成金、10周年記念海外登山に対する助成金、他につき別途、説明。

2)H26年度ルームカレンダーー原案提示。

出席者：尾上、中世古、野呂、箕浦、小川、柴田、山田、市川、石田、星、天野、酒井、高橋、前田、井上、

総務委員会 毛利邦男 記

ルーム日誌

――12月――

- 2日(月)支部友委員会
- 3日(火)県岳連
- 4日(水)TNCC
- 5日(木)青年部
- 6日(金)古道塩の道
- 7日(土)東海ユース
- 9日(月)登山教室委員会
- 11日(水)支部友ミーティング
- 12日(木)自然保護委員会
- 16日(月)図書委員会
- 17日(火)ボランティア委員会
- 18日(水)山行委員会第1山行グループ
- 19日(木)東海学生連盟
- 21日(土)東海ユース
- 24日(火)総務委員会
- 25日(水)常務委員会
- 27日(金)支部報発送作業

――1月――

- 7日(火)県岳連
- 8日(水)TNCC/支部友委員会

- 9日(木)写真展/自然保護委員会
- 10日(金)青年部/総務委員会
- 11日(土)支部新年会
- 14日(火)登山教室委員会/
- 15日(水)山行委員会第1山行G/総務委員会
- 17日(金)古道塩の道
- 18日(土)東海ユース
- 20日(月)支部報編集会議/図書委員会
- 21日(火)ボランティア委員会
- 22日(水)常務委員会
- 23日(木)東海学生連盟
- 25日(金)亀の会運営会議
- 27日(月)登山教室山行打合せ
- 28日(火)猿投の森

――2月――

- 3日(月)支部友委員会
- 4日(火)県岳連
- 5日(水)TNCC
- 6日(木)青年部/写真展実行委員会
- 7日(金)古道塩の道
- 10日(月)登山教室委員会
- 13日(木)支部集会
- 15日(土)東海ユース企画会
- 17日(月)図書委員会
- 18日(火)ボランティア委員会
- 19日(水)山行委員会第一山行G/総務委員会
- 20日(木)東海学生連盟
- 26日(水)常務委員会

会員異動

入会：野崎雅之(15434)各務原市つつじが丘5-63
058-370-2745

退会：足立直行(13771) 小串和夫(14625)
長坂洋一(8015)

総務委員会 酒井 広 記



INFORMATION

【平成 26 年度支部総会、懇親会のお知らせ】

支部総会を下記日時に開催します。支部員皆様の参加を賜りますようお願いいたします。

記

期 日：平成 26 年 5 月 17 日（土）

時 間：支部総会 午後 5 時～6 時

懇親会 総会終了後

（午後 6 時 30 分頃開始）

場 所：支部総会 下前津高砂殿 4F

懇親会 支部ルーム

会 費：懇親会参加者 2,500 円程度

* 同封した出欠席および委任状の返信用はがきに記入の上、速やかにご返送下さい。

総務委員会 佐野忠則

【自然保護委員会からのお知らせ】

今年も恒例の森の勉強会、自然観察山行、JAC 自然保護全国集会在が計画されました。

・自然観察山行

日時：7 月 12 日（土）～13 日（日）

内容：昭和 59 年 9 月発生の長野県西部地震による「御岳崩れ」の植生回復状況および「赤沢自然休養林」の視察を予定。

交通：参加者マイカー便乗

参加費：1 人 16,000 円（見込み）

予定人員：30 名（先着順）

参加申し込み先：5 月末までに

自然保護委員 川合 一まで

FAX 0564-51-8916 又は

E-mail:ka331s@ybb.ne.jp へ

詳細は参加申し込み者に別途ご案内します。

・第 18 回森の勉強会（3 支部共催）

東海支部主幹、関西支部、京滋支部

日時：11 月 8 日（土）～9 日（日）

場所：猿投の森・東大演習林

・自然保護全国集会（広島）

日時：11 月 22 日（土）～23 日（日）

問い合わせおよび申し込み先 南川陸夫

TEL&FAX 0569-42-5382

E-mail:r-minami@ktf.biglobe.ne.jp

自然保護委員会 南川陸夫

【第 2 回夏山フェスタ開催のお知らせ】

第 2 回夏山フェスタが下記要領にて開催されます。

東海支部も全面的にバックアップしています。

日時：6 月 7 日（土）～8 日（日）

場所：名古屋駅前 ウィンク愛知 8F

主催：夏山フェスタ実行委員会

事務局：中部経済新聞社 事業部

イベントの予定：

・三浦雄一郎氏、岩崎元郎氏の講演

・安全登山や山岳写真などの各種セミナー

・「山の日」に関するフォーラム

「山の日」制定協議会会長 谷垣禎一氏、

副会長 尾上 昇氏も参加されます。

・山小屋・山岳関連団体・自治体による相談コーナーや新商品の PR・展示・販売など

詳細は、別紙・添チラシをご覧ください。支部以外にも PR をお願いします。

夏山フェスタ実行委員会 毛利邦男

【ボランティア委員会からのお知らせ】

○第 14 回 SON 愛知の支援登山を行います。

日時：4 月 5 日（土）～6 日（日）

場所：5 日 朝明茶屋 6 日はアスリートとの山行をブナ清水～青岳（1102m）で予定します。

○春のブラインド登山

日時：5 月 11 日（日）岐阜県 蕪山を予定しています

問合せ先： ボランティア委員まで

ボランティア委員会 前田隆久

編集後記

今号は、鈴鹿の山の遭難事故についての講演を特集した。若い登山者が増えるにつれ、遭難騒ぎは増加の傾向にあるという。鈴鹿の山を知り尽くしている居村、小古両氏の講演は、当に達人大観の内容と敬服した。曰く、遭難事故の 85%をしめる道迷い・滑落は無くせる。逆説的な言葉で「単独登山のすゝめ」など、登山者側・管理者側の問題点を抉り出している。今後は、同様に遭難対策委員会を核にした、事故防止の取組みを発信していく。

星 一男



観光庁長官登録旅行業第490号/(社)日本旅行業協会正会員

ALPINE ツアー サービス

海外トレッキング/世界の山旅 専門旅行会社
まずは「ツアーカタログ」ご請求下さい
個人&グループでのご利用お待ち申し上げます

名古屋営業所 TEL : 052-581-3211

〒450-0002 名古屋市中村区名駅 3-23-6 第2千福ビル 8階

FAX: 052-561-8338 E-mail: nagoya@alpine-tour.com

ホームページ <http://www.alpine-tour.com>



ATLAS TREK

ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。

観光庁長官登録旅行業第1167号/(社)日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

名古屋サービスデスク TEL:052-788-2422

(東京本社転送電話)

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町 25番地 三栄ハウス 202

TEL:03-3341-0030 FAX:03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp

ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975

mont-bell

ウェア・ギアに
遊び心も揃えて
お待ちしております!

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に揃う
「モンベルストア」へ。



Outlet 名古屋店

愛知県名古屋市中区栄3-18-1

ナディアパークロフト 6階

Outlet 名古屋みなと店

愛知県名古屋港区品川町2-1-6

イオンモール名古屋みなと 3階

各務原店

岐阜県各務原市那加置場町3-8

イオンモール各務原 2階

Outlet 長島店

三重県桑名市長島町浦安368

三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階

鈴鹿店

三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2

イオンモール鈴鹿 1階

新静岡店

静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1

新静岡セノバ 4階

Outlet アイコンのある店舗では、ファクトリーアウトレット商品も取り扱っています。

モンベル・カスタマー・サービス

☎0088-22-0031/TEL.06-6536-5740 www.montbell.jp

※フリーコールは携帯電話からご利用いただけません。

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成

西山行政書士事務所

〒460-0002

名古屋市中区丸の内3丁目1523番地 大栄ビル204号室

TEL : 052-961-6506

FAX : 052-961-6507

URL : <http://www.nygs-office.com/>

facebook : <http://www.facebook.com/nygs.office>

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号

TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657

E-mail: ta@asai-rbs.co.jp

◆◆◆◆◆ OMC ◆◆◆◆◆

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014

名古屋市中区富士見町 8番 8号

◆◆◆◆◆



(株)ワークシステムサービス

一般社団法人 日本自動車運行管理協会

一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市長東区猪子石 3丁目113番地

TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031

<http://www.work-system.co.jp/>